

未来ノート

—202Xの君へ—

陸上

山県亮太

兄のでかい賞状

父親の創意工夫

勉強嫌じゃない

一生懸命は美德

子に伝えられる指導者に

「座右の銘」を聞かれると、山県亮太（セイコー）は困った顔になった。一つに絞るのは難しい、と。

そんななか、思い出したのが、小学校の先生が口をすっぱくして言っていた言葉、「一生懸命は美しい」だった。「いい言葉だと思

で、現在はマネジャーを務める瀬田川歩さんは、山県の長所を「突き詰めてやること」と話す。「競技力を向上させるために、何か引き出しがないかと本を読んだり、人の話を聞いたりできるのが一番の強み」

大変な思いは、生まれたときからしていた。生まれたのは25年前の6月10日で、実は予定日よりもずっと早かった。その後、何カ月も病院のNICU（新生児集中治療室）に入り、父・浩一さんが通う日々だった。退院しても1年間は外出は止められた。普通に大きくなってくれたらいい、という両親の願いは、小学校に入るまで続いた。

小さかった少年は今や五輪のリレー銀メダリストとなり、100mで日本歴代2位に並ぶ10秒00を出した。

（遠田寛生）



日本選手権決勝後、握手する男子100mで優勝した山県亮太（左）と2位の桐生祥秀＝2013年6月



山県亮太の直筆サイン。「一生懸命は美しい」と書いてくれた

◆ 次回は卓球の平野美宇選手です。

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA（朝日新聞販売所）でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。